

伝統文化の和

女流義太夫 人間国宝

竹本駒之助公演会

女流義太夫の第一人者で人間国宝の
竹本駒之助師をお招きして
語りと三味線が織りなす
義太夫節の真髄を
鑑賞していただきます。



4
23
[日]

2023年4月23日(日) 13時30分～15時(13時開場)

会場=徳島城博物館和室

定員=50人(抽選)

参加費=無料(ただし入館料が必要です。大人300円、高大生200円、中学生以下無料)

申込方法=往復はがきに「竹本駒之助公演会参加希望」と明記し、住所、名前、電話番号、返信宛名を記入のうえ博物館へお送りください
申込締切=4月13日(木)必着

お問い合わせ/徳島城博物館 TEL.088-656-2525

主催◎徳島城博物館

共催◎鶴澤友輔後援会

徳島市立 徳島城博物館

〒770-0851 徳島市徳島町城内1番地の8(徳島中央公園内)
TEL(088)656-2525 FAX(088)656-2466
http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/

徳島城博物館公式Twitterで情報発信中! 徳島城博物館 Twitter 検索



[HP]

「花競四季寿」 萬歳

浄瑠璃 竹本 友代

三味線 鶴澤 友輔

ツレ 鶴澤 津賀花

「卅三間堂棟由来」

浄瑠璃 竹本 駒之助

三味線 鶴澤 津賀花

「花競四季寿」 萬歳

「花競四季寿」は、文化六（一八〇九）年、大坂御霊神社の芝居にて初演。春夏秋冬の構成となつてゐる春の段。年が明け新しい年がきますます栄えることを祝います。町々には大漁の貝や魚を売る店、豪華な呉服などを取りそろえた店などが立並び、売り買いする人が賑わつてゐる様子から平和と安らかに治まつてゐる御代を寿ぎます。

「卅三間堂棟由来」

宝暦十年（一七六〇）「祇園女御九重錦（ぎおんにようごこのえにしき）」の外題で大坂豊竹座初演。若竹笛躬・中臣阿契の合作。卅三間堂の由来や横曾根（よこそね）平太郎の話、祇園女御の話に太宰師季仲（すえなか）・源義親の反逆を配した五段構成の時代物でしたが、文政八年（一八二五）、命の恩人平太郎と夫婦になつた柳の精お柳の子別れを描く三段目を中心に改訂し「卅三間堂棟由来」として上演、以後はほとんどこの形で上演されてゐます。

「平太郎内の段」 あらすじ

紀州熊野の山中、太宰師季仲らが鷹狩りの最中、鷹の足の紐が柳の木に絡まり身動きができなくなつてしまいました。柳の木を伐り鷹を解き放そうとするとこへ横曾根平太郎が通りかかり、矢を射て紐を切り柳の木を救います。木のそばにある茶屋にはお柳という娘がいて、やがて平太郎と夫婦になり緑丸という子ももうけましたが、実はお柳は人間に姿を変えた柳の精なのでした。

一方、白河法皇は頭痛に苦しんでおり、柳の木の前世の髑髏（どくろ）が原因だとされ、その柳を棟木として卅三間堂を建立することになります。柳の木を切る音が聞こえてくるとお柳は苦しみに耐えつつ平太郎に身の上を明かし、法皇の前世の髑髏を渡すこと、これを手柄として出世するように言い残し消えてしまいます。切り倒された柳の木を運ぼうとしたところ、誰が曳いても動きません。皆が難渋するところへ、緑丸を連れた平太郎が現れ、緑丸に綱を曳かせて欲しいと頼みます。平太郎の木遣音頭で緑丸が綱を引くと柳は易々と動くのでした。

人間国宝

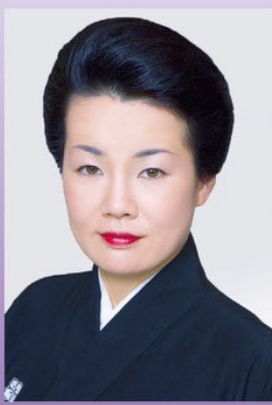
たけもと 駒のすけ
竹本駒之助



たけもと ともよ
竹本友代



つるざわ つがはな
鶴澤津賀花



つるざわ ともすけ
鶴澤友輔



竹本駒之助

兵庫県（淡路島）出身
昭和二四年 大阪にて竹本春駒に入門。三代豊竹つづめ太夫（四代竹本越路太夫）に師事。文案の諸師匠方に指導を受ける。
昭和二七年 二代鶴澤三生を相三味線に東京で演奏活動を始める。
昭和四五年 四代竹本越路太夫の女性唯一の門人となる。
昭和五五年 重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者に認定。
平成八年 第26回モービル音楽賞受賞。
平成一一年 重要無形文化財「義太夫節浄瑠璃」個人指定保持者（人間国宝）に認定。
平成一五年 紫綬褒章受賞。
平成二〇年 旭日小綬章受賞。
平成二一年 第64回文化庁芸術祭優秀賞（レコード部門）を受賞。
平成二四年 第61回神奈川文化賞受賞。
平成二七年 第70回文化庁芸術祭大賞（音楽部門）受賞。
平成二九年 文化功労者に選出。
平成三〇年 南あわじ市名誉市民に選定。

竹本友代

徳島県出身 兵庫県姫路市在住
幼少より義太夫節浄瑠璃を竹本島之助に師事。
昭和三五年 城北高校民芸部の設立時、鳴門高校より城北高校へ転入し民芸部の礎を築く。
昭和三七年 十代豊竹若太夫の勧めで因会に入会。
昭和五六年 城北高校民芸部OB会創立会員。
平成一三年 城北座創立会員。
平成一九年 人間国宝、鶴澤友路師匠に入門。
平成二三年 竹本友代を拜命。
平成三〇年 城北会創立会員。
令和四年 七月重要無形文化財「義太夫節」の保持者として認定される。文化庁長官賞受賞。

鶴澤津賀花

福井県出身
平成七年 武蔵野音楽大学音楽学部音楽学科卒業。
平成一〇年 竹本駒之助に入門。
平成一三年 国立演芸場にて初舞台。
平成一八年 文化庁新進芸術家国内研修員として六代鶴澤燕三に師事。
平成一九年 文化庁芸術団体人材育成支援事業研修員。義太夫協会新人奨励賞受賞。
平成二一年 日本伝統文化振興財団第10回 邦楽技能者オーディション合格。
平成二三年 第24回清栄会奨励賞受賞。
平成二九年 第38回松尾芸能賞新人賞受賞。

鶴澤友輔

徳島県出身
平成四年 東京芸術大学音楽部邦楽科卒業。
平成一〇年 人間国宝 鶴澤友路に師事。
平成一八年 阿波文化創造賞を受賞。
平成一九年 第22回国民文化祭・とくしま2007で、瀬戸内叔聴の新作浄瑠璃「義経街道娘恋鏡」「モラエス恋遍路」の作曲と演奏を担当。
平成二二年 四国遍路を世界遺産に・応援曲「夢・空海」発表。
平成二四年 第27回国民文化祭・とくしま2012で新作「阿波の心」を作曲・演奏。
平成二五年 観光庁・JATA主催する、東京の増上寺で行われた「TAHAKUNIGHT 2013」出演。「夢・空海」独奏。
令和元年 モラエス賞特別賞受賞。文化庁芸術祭参加作品CD「モラエス恋遍路」を日本伝統文化振興財団より全国発売。